

(銀のエンジェル賞 幼児・小学生低学年の部)

おもらしママ

小二・文字^{もんじ} ゆうみ

おもらしママってしってる？ おもらしママっていうのは、おもらしする子のおかあさんのことを言います。でも、ちがういみでおもらしママとよばれているおかあさんがいました。

そのおかあさんは、いつもおねしょをしてしまうんです。おかあさんの名前は、さかたゆう子。すごいび人さんです。けれど一つだけざんねんなことがあります。それは、子そだてでつかれているのか、いつもおねしょをしてしまいます。ところが、それがひょうばんになり、おかあさんはテレビにひっぱりだこ。いつもテレビに出て大もうけ。ごうかな家にすんでいました。

ある日のことです。もう一人大人になったのにおもらしをしている、おかあさんがとうじょう。さてさておもしろいことになってきました。そのもう一人のおかあさんの名前は、その田まき子。さてさてゆう子さんとまき子さんのしようぶがはじまりました。二人はにらみあっていました。その時、どこかで声がしました。

「そんなことでしようぶするんだったら、び人コンテストをやりやいいのに」

さいしよみんなは、ぎもんもいっぱいでしたけれど、そのうちにだんだん「び人コンテストは、おもしろそうだ。やってみたい」と思う人が多くなってきました。そして「び人コンテストをやるう」ときまりました。それにはんたいしたのが二人のおもらしママです。

「やーよ。おもらしのがなんでび人コンテストにかわっているの。わたしは、び人じゃないしおもらしごとではじまったのよ」と大はんたい。そんなわけですから、おもらしどっちのりようが多い大会がひらかれることになりました。今日、二人は、会場でねておきたら、おもらししたふとんをスタッフにもっていくということになりました。二人は、ぐっすりねてしまいました。朝おきるとせかいち図をかいたみたいにふとんがぐっしよりぬれています。二人のふとんは、なかよしこよしでギューとしぼられていました。そしてしようぶがつかまりました。しかしもうこんくんだりないことはやりたくない!! とけんてい人が言い大会は、まくをとじました。ふしぎなこと、その時から二人ともおねしよをしなくなりました。そんなことがあり、くだらないことをしても、そんなはしないといわれるようになりました。

この話の中ではね。
